
私たちの異世界生活録

暁 高谷

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

私たちの異世界生活録

【Nコード】

N6155Z

【作者名】

暁 高谷

【あらすじ】

ある日、私は二人の友達とともに異世界に飛ばされてしまった。三人はその魔法や剣がある異世界で何を成すのか。そんなファンタジー。

プロローグ 異世界へ（前書き）

小説は初めて書くので、面白いか自信が無いですが、ひっそりと描いていきます。

プロローグ 異世界へ

私、あかさわこうき赤澤光輝は、同じマンションに住むふたりの友人と下校していた。

そして、マンションのエレベーターに乗り、扉を閉じてしばらくたち

「おい、何かエレベーター変じゃないか？」

「確かに長いわ。もうとづくに着くはずなのに・・・」

そう、いつまで経っても止まらないのだ。

そして、私が緊急ボタンを押そうとしたとき

「ッッッ！！！！」

強烈な頭痛に襲われた。

他の二人も頭痛がするらしく、頭を抑えている。

「ッ！あああああああああ！！！！！！！！！！」

「うううう！ぐああっ！」

ふたりとも悲痛な叫び声をあげ、倒れた。
そして私も、気を失った。

ブローグ 異世界へ（後書き）

『私』の友人は男と女一人ずつです。

第二話 異世界（前書き）

初めての操作ミスでデータが吹っ飛びました。

第二話 異世界

「う、ううん・・・」

「ん、目が覚めたのかい？」

「ん？ああ。って！ここは何処だ！」

「まあ落ち着いて。と言っても僕もさっき落ち着いたばかりなんだけどね。」

「そうか。ありがとな、

ん？」

「どうしたの？」

「名前が思い出せないんだ。お前の名前も、か、彼女の名前も、俺の名前も！」

「本当だ！うーん困ったなあ。でもとりあえず彼女が起こるまで待とう。」

そうして俺たちはしばらく周りの大自然を眺めていた。

「う、うーん。」

「よう。やっと起きたか。」

「うん。え？こ、ここは何処おおおおお！！！！！」

女性特有の高い声で彼女は叫んだ。その声に驚いた鳥たちが飛び去っていった。

俺たちはその声に驚きながら、状況を説明した。

「そう。状況はわかったわ。」

「じゃあ、まず人を探そう。何かわかるかもしれない。」

「ああ。」

そうして、俺たちはしばらく森の中を歩いていった。そして

「おい！ジャツカル！早くしろ！」

「ああ！早くこの森から逃げねえと！だがガイヤ、もう少し待ってくれ！」

「チツ！」

人がいた。俺たちはそのことに安堵しながら、様子を見ていた。

「あの男たちは何なんだろうな？」

「さあね。何から逃げているんだろう?」

「あの人たち変わった格好をしてるね！」

そう、男たちは、マント外套を着て、腰にサーベルを付けていた。

「もう少し様子を見よう」

「ガオオオオオオオオオオ！！！！！！！！！！」

「あれは、飛竜！？いや、ワイバーンか！」

「何だとお！？」

俺たちが見たのは、ワイバーンがガイヤと呼ばれた男に襲いかかる
うとするとところだった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6155z/>

私たちの異世界生活録

2011年12月20日21時53分発行